

インドネシア

「[BHINNEKA TUNGGAL IKA (多様性の中の統一)]」

Indonesia



多種多様な文化、言語、宗教が混在するインドネシア共和国。国のスローガンは「[BHINNEKA TUNGGAL IKA]」。訳せば「多様性の中の統一」ということになるのか。長い歴史の中でさまざまな民族や国から影響を受け、インドネシアの「多様性」は培われてきた。その魅力に迫る。

滋賀銀行 国際部 大羽千尋

多民族・多言語国家

インドネシアは約1万3500の島々からなる世界最大の島嶼国家で、人口は約2億5千万人と世界第4位だ。約6000の島々にジャワ人やスンダ人をはじめ約300もの民族が暮らす多民族国家である。首都ジャカルタの日常風景は他の国の大都市と変わらないが、違う都市に行くと、同じ国でも言語や生活習慣、食事、気質が異なる人々と出会う。公用語のインドネシア語を母語とするインドネシア人は3000万人程度といわれ、300とも700ともされる言語が、生活の場に飛び交っている。

多宗教

インドネシア国民の約9割はイスラム教徒(ムスリム)で、その数は世界一。そのため、世界18億人市場とされる巨大なムスリム経済圏への「玄関口」として注目されている。

しかし、イスラム教はインドネシアの国教ではない。イスラム教、キリスト教(プロテスタント、カトリック)、ヒンドゥー教、仏教、儒教が国の公認宗教だ。憲法で宗教の自由を保障する一方、国民にはいずれかの宗教を信仰するよう定めている。17歳以上の住民には「KTP (Kartu Tanda Penduduk)」と呼ばれる身分証明書の保持

が義務付けられ、顔写真とともに氏名や生年月日、住所などに加えて、信仰する宗教名が表示されている。まさに多宗教国家である。

融合による歴史的傑作

ジャワ島中部南岸に位置する古都、ジョグジャカルタ。「平和の町」を意味し、豊かな自然と長い王朝の歴史を持つこの町を地元の人々は「ジョグジャ」と呼ぶ。ジョグジャが所属するジョグジャカルタ特別州は伝統的な宮廷文化や歴史的遺産を数多く有することから、1985年に京都府と友好提携した。

この町には2つの世界遺産がある。「ポロブドゥール寺院遺跡群」と「ランバンナン寺院遺跡群」。いずれもインドネシアを代表する観光名所で、毎年、世界中から観光客が訪れる。この地は9世紀、北部は仏教王国シャイレンドラ王朝、南部はヒンドゥー教国マタラム朝が統治。両国は王族同士の結婚により縁戚関係にあり、友好的に交流していた。現存する両遺跡、特にランバンナン寺院遺跡群は仏教と

「多様性」の先に

ヒンドゥー教が融合した寺院遺跡群で、宗教の違いを超えた「共生」が悠久の歴史からも読み取れる。

日本のAKB48の姉妹グループ「JKT48」が首都ジャカルタで活躍している。「総選挙」握手会など日本式のアイドル活動を展開、国民的存在になった。同グループは今年1月、北海道函館市の観光大使に任命され、今後、東南アジアで開催する観光イベントなどで函館の魅力をPRする。

「JKT48」の成功の要因は、日本式のノウハウを現地につまみ溶け込ませる形で展開したことにあるだろう。ここに、インドネシアの「多様性」に対する考え方があってこそ。つまり、多民族・多言語・多宗教の国家として、「異なるものを自国の文化と融合させ、さらなる発展の原動力にする」との考えである。インドネシアは「多様性」を旨としながら今後ますます国内外での連携を深め、発展していく。そんな思いを強くした。



ジョグジャカルタの一番の繁華街マリオボ口通り。いつも観光客や地元市民でにぎわう。



インドネシアの日本語学習者数は世界第2位。小学生たちも「こんにちは」と声を掛けてきてくれた。

世界最大級の仏教遺跡「ポロブドゥール」。8~9世紀にかけて建造されるが、王朝の盛衰や火山噴火により、1814年に発見されるまで1000年以上もの長い間、密林の中に埋もれていた。今だ多くの謎が残る遺跡だ。